



平成30年度 事業所職員向け 児童発達支援自己評価表集計結果

公表日：平成31年3月29日

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	✓		児童の状況等に合わせ、できるだけ落ち着いた空間を提供できるようにしていく。
	2	職員の配置数は適切であるか	✓		時折、余裕のない時もあるが、仕事等の時間のやりくりで対応している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	✓		インターホンの設置で名乗ることが出来るようになった利用者もいる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	✓		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	✓		適宜、必要に応じて実施されているが、日常的に話題に上るようにしていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	✓		日々の報告時に保護者からの意見を聞きながら、改善の一助にしている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	✓		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		✓	今後、必要と考える。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	✓		継続的な実施が有用と考える。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析したうえで、児童発達支援計画を作成しているか	✓		表面的な観察で終わらせないよう、日々の中でスタッフ間の意見交換を行っていく。
	11	子供の適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	✓		インテーク時のようなツールがあると良い。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、そのうえで、具体的な支援内容が設定されているか	✓		ニーズや現状をもとにしており、特に意識はしていない。ガイドラインの押さえは必要であると思う。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	✓		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか		✓	たたき台をもとに意見を出し合っているが、全体的には取組めていない為、準備段階より意見が出せるようにしていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	✓		

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
適切な支援の提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成しているか	✓		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	✓		スタッフ間が共通理解に至るよう、細かな流れの確認が必要である。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	✓		「休み」等の話題で終わってしまうことが多いため、状況や課題内容等幅広い話題にしていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	✓		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	✓		定期的に支援計画を確認していく作業を行っていくことで、モニタリングにつなげていく。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	✓		複数担当スタッフがいる場合は、複数で出席が望ましい。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	✓		現状では保護者からの情報に頼っているが、今後は連携が必要になってくる。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	✓		現状では保護者からの情報に頼っているが、今後は連携が必要になってくる。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連携体制を整えているか	✓		現状では保護者からの情報に頼っているが、今後は連携が必要になってくる。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	✓		学校との情報共有の機会は増えてきたが、他機関も含め拡充が必要である。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	✓		
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	✓		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	✓		クリスマスコンサートやコミュニティーセンターの活用で、触れ合う機会を設けている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	✓		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	✓		療育の報告に終わらせないで、家庭での状況もきちんと聞いておく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	✓		特にプログラムはないが、都度保護者疑問には答えている。

		チェック項目	はい	いいえ	改善目標、工夫している点など
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	✓		字面を追っての説明をしているが、スタッフ一人ひとりが大まかながらも理解して説明できるようにしておく必要はある。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	✓		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	✓		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	✓		おやじの会
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	✓		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	✓		ささいな事柄でもグラムールの変化として、また行事の報告として発信していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	✓		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	✓		
非常時等の対応	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	✓		
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか		✓	マニュアルを作成し、スタッフの理解を促すとともに保護者に周知していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか		✓	年間の予定の中に組み込んでいく。
	43	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	✓		各事業所内で、観察を要する利用者をピックアップしてスタッフの方で気を配る配慮も必要である。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		✓	医師までは追っていないが、インテークの際に保護者の確認はとっている。場合によっては医師判断も必要であるのか。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	✓		存在も含め、活用の仕方などスタッフ間に周知していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	✓		特段の研修は実施していない。子供の状況を日頃から気にかける様にはしている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	✓		「本人に危険が迫っている際」との説明は保護者にしているが、グラムール自体に具体的な場面で設定が必要となるか。